日山協自然保護ニューズレター（平成 27 年冬号）

発行日 平成 27 年 1 月 31 日　　発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

第 38 回自然保護委員総会

報告は、日山協会自然保護のブログページにも掲載していますので次の URL から参照ください。
http://mountprotection.sblo.jp/

11 月 22 日 14:00～17：30、広島市文化交流会館において 28 都道府県、90 名　（日本山岳協会傍聴者を除く）が参加して第 38 回自然保護委員総会が開催された。今回の総会は 11 月 24 日までの間、山岳団体交流会（ウェルカムパーティー）、山岳平和セレモニー、国際山岳フォーラム、20 周年記念祝賀会、宮島エキスカーションなどのアジア山岳連盟創立 20 周年記念の一連の行事と連携し、アジア諸国のゲストと国内の山岳団体（JMA、JWAF、JAC、HAT-J、都岳連、山の ECHO）がそれぞれの記念事業に参加し交流を深めた。

今回は広島での開催とあって、ここ数年来不参加であった 3 団体の参加が加わり、在来よりも多い 28 団体から、90 名の自然保護関係者が集った。

総会においては、主催・主管の挨拶のあと、主催者側から年間の事業報告・計画の報告、2 件の特別報告、参加団体からの 28 件の活動発表が行われた。

総合司会に宇山茂之広島県山岳連盟普及部長、議事司会に小高令子日山協自然保護事務局長により、次の内容で総会が進行した。

（開会）

山田広島県山岳連盟理事長が歓迎の気持ちを込めた開会あいさつを皮切りに、神﨑日山協会長、石倉日山協自然保護委員長に続き、主管の京オ広島県山岳連盟会長の挨拶で第 38 回自然保護委員総会が繰り広げられた。

神﨑会長 主催挨拶

UAAA 創立 20 周年に際して、アジア地域の国際貢献を進める。1992 年に松本で開催した UIAA 総会ですがアジア圏で行ったこともあってアジアからの参加も多かったことから、アジアでも国際連携が必要との声があった。1994 年に韓国の仁川でアジア山岳連盟の設立総会を開催することとなった。その初代会長が日本山岳協会の斉藤一雄会長で UAAA が出帆した。

それから 20 年アジア山岳連盟は脈々と活動してきて、カトマンズで 20 周年の祝いを日本で行って欲しいとの意見があり、その時に心に閃いたのは日本の山岳自然保護の情熱を是非発信したいと思いました。日本に持ち帰り日本山岳協会ほか各団体の自然保護の方々に訴え協力を求めました。今回の UAAA 創立 20 周年の各イベントを通し、日本の自然保護の情熱がアジアの人々に伝えてまいりたいと思います。

是非我々も 3 日間外国の人たちと接するわけですが、日本の自然保護愛好者として良い意味で自信とプライドをもって外国の人たちと交流しながら世界の自然保護はどうやって行くべきかをこの機会に学んでいただきたいと思います。ちなみに外国からは 72 名の方々が参加してくれました。そして明日の祝賀会には約 300 名の方々が出席していただくなかで、大きな影響を外国には与えられるのではないかと推察し、うれしく思っています。

石倉委員長 主催挨拶

第 38 回総会を迎えまして、UAAA の創立 20 周年記念の各種行事と連携して行うこととなりました。一年ほど前に神﨑会長から日山協が参加する山岳団体自然環境連絡会に広島でイベント開催の話を受けまして、同連絡会は国際フォーラムを、各団体は全国集会を開催することを申し合わせました。日山協は今開催の「第 38 回自然保護委員総会」をこの一連として参加することとして計画を進めてきました。今回は UAAA の記念事業の一端を担うということで、ご出席の方々には破格なご負担を快く引き受けていただきました。誠にありがとうございました。

さて、私ども活動で大きな課題が 2 つございまして、今回の議事報告にも挙げさせていただいております。まず第一点は自然保護指導員制度の登録数低減です。高齢化社会を反映しているのかもしれませんが、更新数が年々減少をいたし、新規登録数の減少と相まって合計登録数が右下がりとなって来ております。山岳自然の第一線の活動を担う自然保護指導員の減少を抑え、むしろ増員の方向にいたすのが急務かと思います。第二点は自然保護指導の若返りということです。平成 26 年度から全国高体連登山専門部が日山協のメンバーとなって、これへの対応ということもございます。将来の登山家の養成ということもありますが、若年層への自然保護意識の浸透を配慮していく時期にあるということを認識して、打開策を検討致して行きたいと思います。

京オ会長 主管挨拶

北は岩手、南は沖縄まで、このように皆さまを平和都市広島にお迎えして主管団体として大変に感動を致しております。

インドのインドラ・モディ首相が「母なるガンジス川を甦らせる」と清掃キャンペーンを実績に公約

したことはお聞き及びかと思います。このようにアジア圏でも自然環境へ関心が高まりつつあります。我々も、今回の総会を機に更なる研鑽を積んで行くべきかと感じる次第です。このあと諸先生から特別報告を頂くことになっておりともに勉強をいたしたいと思います。

（議事概要）

議事の冒頭に主催側行われた事業報告・計画の説明では、山岳団体自然環境連絡会はじめとする会議や自然保護指導員研修会・常任研修会など研修会の実施状況について報告、またニューズレターやブログページなど発行活動の年間状況の説明が行われた。また継続中の活動として、自然保護指導員制度、山の野生鳥獣目撃レポート、「山はみんなの宝」憲章、「山と自然の聖地」研究会、山岳団体自然環境連絡会活動について説明された。

つづいて、「ひろしま森づくり安全活動推進協議会」の畝崎辰登事務局長から「ひろしまの山の日の活動」と、「山の ECHO」森孝順理事から「山と自然の聖地の活動について」と題した 2 件の特別報告が次の通り行われた。

（畝崎辰登氏 特別報告概要）

日本の地域の中で広島は非常に里山の多く、それだけ身近な山であるから、ひろしま「山の日」県民の集いのミッションは「身近な山に出かけようじゃないか」ということです。「山を良くして行こう」との運動をしようというのがひろしま「山の日」県民の集い。13 回目となる今年は 12 市町 14 会場で開催となった。

さて、「山の日」をつくろうということになったのは、2002 年の 2 月に東広島市で行われた「第 7 回森林と市民を結ぶ全国の集い」のときのパネルディスカッションでパネリストから「山の日」をつくろうではないかという提案が契機。この活動は森林ボランティアや山岳連盟などの民間主体で、行政がサポート役で運営しており、民間主体は全国では唯一。

「山の日」の活動は「山」をキーワードにして、参加団体の特色を生かし、いろいろな企画を持ち寄って、自由にプログラムを行う形式としている。身の丈に合ったコンパクトな運営をし、自然の保護と同時に文化や歴史の保護の兼ね備えた活動が特徴。

若い世代の子供さんたちも「山の日」には近くの山へ出かけて、行事に参加するという状況が出てきている。この集いは今年で 13 回目になりますが、最初は 1 会場でやっていたが、回を重ねる度に会場数が増えてきた。

具体的な目標として当面して考えておりますことは、2022 年には広島県内の全市町（23 市町）でひろしま「山の日」県民の集いの行事ができること。28,000 人（県民の 1 パーセント）の県民に参加してもらう事が目標。最後に、「山に日」でも行っております「どんぐりコロコロ」三唱を致して結びと致したいと思いますので、みなさま、ご唱和ください。

（森孝順氏特別報告概要）

環境省レンジャーを永くやっておりましたので、北は北海道から南は九州までほぼ日本全国 47 都道府を回ってきました。また、JICA にも籍を置いて、フィリピン、マレーシアのボルネオ島やインドネシア、マダカスカル、コスタリカなど海外の自然も見てきました。海外から日本に帰ってきて、日本の自然はすごいなと改めて感じています。どこへ行っても水が飲めるという、こんな素晴らしい国はありません。

今回は「山と自然の聖地」ということで話を進めさせていただきますが、先ず「山と自然の聖地研究会」の活動の紹介とその目指すところをお話する。

「山と自然の聖地」研究会は、去年に開催された山岳関係者の集まりの時に、山と神の関係が話題にあがったことを契機として、有志が集まり研究会という形で発足している。この会の目的は、昨年 6 月に制定された「山はみんなの宝」憲章の序文にあるように、「古くから日本人は、山を信仰の対象として畏れ敬い、山が齎す豊かな恵みに感謝して暮らしてきたこと」を受けて、「この概念を再評価することにより、山域における自然環境の保全と適正な利用のあり方に貢献すること、さらに、山域の自然と文化・歴史を学び、認識を深めること」としている。

「自然の聖地―Sacred Natural Sites」とは何かというと、IUCN（国際自然保護連合）ガイドラインでは、「人々及びコミュニティにとって、特別な精神的な価値を持つ地域」と定義されている。先住民社会や地域のコミュニティ社会が信仰の対象として、暗黙のルールで大事にしている場所で、法的な規制がなくとも対象とする地域の自然が守られてきた。

この「自然の聖地」は世界中の至るところにあり、日本で言いますと古くから「八百万の神」ということで、どこにでも神が存在することになる。基本的には、「畏怖する場所」、「恵み深い場所」、「畏敬の念や幸福感を抱く場所」ということで、このような「自然の聖地」では、生物多様性の保全の観点から国際的に注目をされている。

「自然の聖地」が目指すところは、我々日本人が多様な生き物と共生して、持続的に自然を利用して暮らしてきたことを再認識することにある。山・海・川のつながりの中で、様々な生き物が互いに共存していく社会が望ましく、それら背景にあるのが、自然を畏れ敬い、自然の恵みに感謝して暮らしてきた日本人の心の故郷である「山と自然の聖地」への信仰である。

（加盟団体活動報告概要）

岩手県山岳協会　植田
連盟では岩手山避難小屋を管理しており、安全登山の指導啓発、自然保護の啓発、ジュニア育成事業、ボッカ大将（岩手山避難小屋を管理するための食糧荷上げ）。夏季のシーズンには小屋の適正管理や環境整備として水洗トイレの清掃なども（H13 年には 1800 人もの利用）。登山者の残した残飯を目当てに熊の出没である。

山形県山岳連盟　高取
朝日連峰（三沢清水）付近登山道補修：集中豪雨で浸食した歩道の改修（粗朶工法）、ボランティアの高齢化が課題である。

福島県山岳連盟　尾形
東日本大震災の影響が未だ残る。会津などでは放射線量は低減したが浜通りは注意を。尾瀬サミット・清掃登山・少年登山教室、植生回復事業、登山道の貼り払い整備委託事業など行政とタイアップした保全活動を実施。飯豊山の川入の集中豪雨による崩落で入山時は注意を要する。

茨城県山岳連盟　小川
筑波山を中心に清掃登山など活動をしている。一般個人の参加が多い。水の環境一斉調査にも参加。

栃木県山岳連盟　手塚
日光や那須の清掃登山が主体。県民に呼びかけて開催。栃木 100 名山の登山を通した一般人（小学生）の参加を呼びかけ実施。

埼玉県山岳連盟　堀江
近隣県の岳連との情報交流を取り込む。少年少女に向け生（なま）の自然環境に触れる機会を提供する活動を展開している。

千葉県山岳連盟　濱田
両神山地主の山中氏を迎えた研修会をおこなった。山中氏は白井差コースなど自力で登山道を開き利用料を整備に充てている。国立公園内の私有地（山林管理：樹木伐採や相続税など）の難しさなどを拝聴した。冬期の房総の登山道の整備（雪圧による倒壊）

東京都山岳連盟　西山
20 以上の事業を展開した中で、「カタクリパトロール」ではシカの食害を実地検証した。水質調査は年間を通して実施してきた。高尾山にて 160 名参加の清掃活動。携帯トイレの利用促進を実施。

神奈川県山岳連盟　松隈
ファンドに応募するなどして、公的資金の活用を行う。保全活動（里山整備、森林再生）と学習活動が主体に活動してきた。

山梨県山岳連盟　磯野
山梨県の山岳レンジャー制度を中心にして活動展開し、①日本ジカ対策（防鹿柵整備・駆除）、②山岳トイレ整備（維持管理）、③トイレ料金制移行などの問題を指摘。岩殿山 130m 標高を山のスカイツリーとして低山（里山）登山を振興してきた。

新潟県山岳協会　伊藤
研修会を 3 回開催。一般登山者対象の山岳自然を守るとともに山岳遭難の防止に向けた登山行事を開催。妙高山のライチョウ調査など（シカの高山侵入による食害の影響）。朝日・飯豊の登山道再生にも参加（飯豊では若年層が見られる）。

長野県山岳協会　小林
八ヶ岳清掃登山ということで年毎に南から北へ順次場所を変えながら、今年は北端の蓼科山で一巡し実施（来年は南へ戻る）。ジュニア登山教室（小３から小６、父兄なし）を 2 回の 6 時間ほどのコースを実施。中部山岳では、シカの進出とライチョウ保護が課題となっている。

富山県山岳連盟　藤井
昨年連盟創立 65 周年を迎え、その記念事業として富山百山を制定しきた。加盟 30 団体中心に月 1 回の委員会を開催。主な活動は一般公募で県民登山教室を毎年開催で、今年で 39 回目。北アを中心に登山（一般の人気が高い）。自然保護指導員と加盟団体会員を対象に自然保護セミナー（山の知識、自然保護の取り組み）にて講演や実地にて開催。セミナー参加者は減少傾向ではあり、アンケート調査を実施。

静岡県山岳連盟　豊田
国や県などから各種指導員を受けて活動。富士山での活動では山岳連盟の域を超えてきた。猪や鹿が増えたことで、狩猟者の高齢化から免許更新もままならない状況。リニア―新幹線が南ア山岳の地下 100 mを通ることで、意見を述べるポジションにないのだが、環境保全の面で善処を大いに期待するところ。

愛知県山岳連盟　杉本
一昨年から鈴鹿山系連絡協議会で愛知岳連では遭対と自然保護からメンバーを送っている。自然保護指導員（加盟団体から代表の参加）を取り込んだ自然保護委員総会を開催。鈴鹿山系連絡協議会の安全登山アンケート調査に協力（御在所岳で）。34 回自然観察会を開催した。

三重県山岳連盟　橋本
自然保護指導員の募集を行い 2 名の申し込みを受けた。根の平峠の清掃登山では遭難事故の発生により急遽対応。自然保護月間を設定して清掃活動を推進。鈴鹿山系連絡協議会にも岳連から遭対と自然保護がメンバーで参加協力。

京都府山岳連盟　山本
活動は毎年継続的に実施しその一つに清掃登山を実施。京都は東山・北山・西山を通る京都一周トレイルコースがあり観光客が最近急増し、「京都一周トレイルマップ」の売上が好調ですが、清掃の面が大変。概ね 600 名が参加するようになった。高体連の子供たちが今年から参加。一般山岳会の会員より以上に活躍し、会員から拾うゴミがないとの悲鳴あり。新しい方向が見えてきた模様。紅葉の観察会も実施。近畿地区の自然保護が連携の会合へも（今年は兵庫県での開催）参加した。

大阪府山岳連盟　斉藤
平成 26 年 9 月から委員会活動再開。里山の良さを次代に伝えるとし、自然触れ合いハイキング・水生生物の観察、放置竹林の伐採を、環境保全活動として、清掃ハイキング、大阪の山域の水質検査、他団体と連携で自然保護啓発活動を実施。今後、森林保全（里山放置林の手入れ）を通し岳連の森づくり、生物多様性についても研修の予定。安全パトロールなど。

兵庫県山岳連盟　吉野
普及委員会と共同で年 2～3 回にお自然観察会（六甲山など）を実施。歩きながらにして、動物や植物について学ぶ内容が好評で休憩中にもルーペ・図解・サンプルを使った丁寧で分かりやすい説明を行った。このことで平均参加者数が 40 名となった。自然保護官事務所から講師を招聘。今後も歩きながらの学習を進める。「岳連の森」として自然保護・環境保全活動のひとつとして六甲山系グリーンベルト整備事業の森づくりに参画し、実践・啓発の場として活用。

鳥取県山岳協会　長妻
春の大山一斉清掃と称して、各山岳団体が集まって活動を実施。ほとんどゴミはなくなったこともあり、自分たちの弁当ガラを持ち帰るほど綺麗になった。「大山の頂上を保護する会」の総会などにも出席やポスター掲示などの啓発で参加協力。6 月には大山頂上で復元作業や、NPO 飯豊朝日を愛する会」から

講師を招き登山道復元の研修会を開催。鳥取西部地震の崩壊で長らく登山禁止になっていた「烏ヶ山」を何回か調査して、禁止看板を外す方向で動いている。一木一石運動は大山のシンボル。

岡山県山岳連盟　津島
清掃活動が主要。牡鹿岳（瀬戸内海の綺麗なところ）の岳連とフリークライミング協会が協働で清掃活動に若いクライマーが多数参加。自然保護指導員研修会では全員腕章着用で「指導員の手引き」をもとに実施。市民団体「森を守る会」に応援参加。ツル切り・下草狩などの作業の後に、リース作りやシイタケ菌の植菌などが好評。「山はみんなの宝」看板の設置は継続している。

広島県山岳連盟　小田
自然環境保全との名称で活動。雲月山 山焼き、山の日の県民の集い、水質検査、などを行っています。今回の宮島を案内役に向け、勤労者山岳連盟とも連携して、自然解説のトレーニングを行った。宮島の整備活動などでは 5 つの機関の許認可が必要で、ボランティアで補修わけにも行かず、自然の成り行きに任せています。参考によくご覧になってください。

山口県山岳連盟　井上
陶ヶ岳という 250m ほどの山があり、毎年清掃登山の対象に整備している。この山はロッククライミングの山として知られ、山口岳連が発足した昭和 23 年から実施しています。中腹にある水場や頂上直下の石垣の清掃を行います。昨年の集中豪雨では登山道も流されるありさまで、高山植物の生育地へも被害が及びました。その修復に山岳連盟だけでなく地域の自然保護団体と協働でおこなった。山口県の山は非常に雑木林が密で猪や鹿が暴れて困る状態。広葉樹の山も間伐を行い見通しの良い森づくりが獣の進出防止に効く。農業被害はとても多い。

徳島県山岳連盟　後藤田
シカ食害で熊笹が退行し登山道が不鮮明になったことから道迷い遭難が増えている。また地盤が緩み崩壊も見られる。防鹿ネットが破られるなど被害も出ている。ミツマタをシカが採食しないとのことから、2 ヘクタールの場所に 2,000 本を植栽した。

高知県山岳連盟　麻田
登山活動の中で清掃を呼びかけてやっている。シカ対策として三嶺山系で 200 名ほどの動員でシカの駆除を行った。高知県では野生動物の被害が非常な問題となっている。

大分県山岳連盟　石田
自然保護委員会はないが、連盟全体で取り組んでいる。清掃登山や登山道の補修などが通例で行っていますが、九重山系が入山者が多く、トイレが 1 箇所しかなく過剰利用となっている。岳連としてはトイレの新設よりも携帯トイレの利用を考えており、過剰利用の解決に入山料徴収で対応する意見も浮上して、深刻なものとなっている。

鹿児島県山岳連盟　　鮫島
次の 3 点を重点でやっている：①清掃活動から整備活動へ、②関係する団体との協働連携、③ジュニア―育成。

沖縄県山岳連盟　坂口
山岳連盟が昨年の 3 月に発足。現在傘下に 2 団体あり、それぞれで清掃活動を行っているが、連盟としてはまだ活動に至っていません。従い、今回の委員総会で各加盟団体の話を伺い活動に役立てたい。

第五回自然保護指導員研修会

11 月 9 日（日）、オリンピック記念青少年総合センターにて東京都山岳連盟が主管した日山協主催第 5 回自然保護指導員研修会公開講演が開催された。この日の研修会・公開講演会は、自然保護指導員の研修を兼ね、山岳自然保護を広く伝えることを目的に開催され、関東地区か約 75 名が参集した。

研修では、自然保護指導員の新規希望者・次年更新希望者・既登録者に向け、自然保護指導員制度について、指導員の基礎知識（関連法規・自然保護の問題点・活動の仕方）について解説した。

講演では、上田信（立教大学教授）から「風水という名の環境学」とのタイトルで、中国福建省を起源とする「風水思想」が自然保護に果たす役割について説話を頂いた。中国風水では、気(氣)が中心となる須弥山から発し天山山脈を通り三大幹（三つに枝分かれ）となって中国に流れ込む、そのもっと最も南側にある流れが中国福建省にあるとする。氣の流れる場所は神聖とされ、樹木など自然が大切にされているとのこと。

会議等

◆自然保護常任委員
平成 26 年 11 月 13 日
平成 26 年 12 月 11 日
平成 27 年 1 月 17 日

◆山岳団体自然環境連絡会
平成 26 年 11 月 17 日
平成 26 年 12 月 19 日
平成 27 年 1 月 22 日

編集後記　過日 NHK テレビの「巨大災害」と番組に思わず見入ってしまった。巨大災害の裏側に、環境問題が与える悪夢を見た思い。
第 38 回自然保護委員総会ならびに UAAA20 周年記念総会及び関係行事の巨大イベントが無事閉幕となった昨年、主管した広島県山岳連盟の関係者の方々に感謝をいたします。　　（松）

発行元
公益社団日本山岳協会　自然保護委員会
〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館
☎ 03-3481-2396　FAX 03-34891-2395
HP www.jma-sangaku.or.jp
Blog http://mountprotection.sblo.jp/

発行日　平成 27 年 1 月 31 日
発行番号　2015 年冬号　(2015-1 pub1)